

A0101-14	ガス漏れ現場に車両で近づくな		
本文	ガス漏れがあった場合、構外や構内の車両通行可の場所であっても、ガス漏れ現場に車両で近づかないこと		
リスクの種類	ガス漏れ 爆発	目次・章節	
理由(何故)	空気より重い引火性ガスが漏洩すると蒸気雲となり地上で拡散し、車両のエンジンの熱により着火する。したがって、漏洩現場に内燃エンジン付きの車両で駆けつけるのは最も危険な行為である。		
方策	<p>1) ガス漏れがあった場合、まずは、現場から出来るだけ正確な情報を得るようにする。</p> <p>2) ガス漏れの状況と風の状態と漏洩現場の位置を考え、着火の危険性を判断する。</p> <p>3) ガス漏れ現場、あるいは異常の発生している現場付近に行く必要のある場合は、徒歩または自転車で行く。</p> <p>4) 消火作業のため、公設消防車も含め消火用車両に対しては、適切に案内すること。</p>		
事故例	<p>① (2005年3月 BP Texas City) 異性化プラントのスプリッターに充満した液がブローダウンドラムのベントスタックから溢れ蒸気雲となり、現場事務所付近まで拡散、車両のエンジンの熱で着火し大爆発を起こした。(死者15名 負傷者180名)</p> <p>② (1966年01月 Feyzin, France) リヨン郊外の石油精製工場のLPGタンクのドレン切り作業中にバルブが凍結、LPGが大量漏洩した。構外の道路に拡散したLPGが通行中の乗用車のエンジンにより引火・火災になった。発災タンクが BLEVE 現象で破裂・爆発を起こし、周辺のLPGタンク4基を破壊し、さらに原油やジェット燃料などの常圧タンクを燃焼させ、製油工場は壊滅的な打撃を受けた。</p>		
法的参考事項			
備考	PSB 2009年9月号のクウェートの事故もオペレーターが現場に自動車で行き、それが着火の原因となったとみられている。		